

医療機関2025プラン（その他の医療機関）目次

	病院名	頁
1	防府リハビリテーション病院	P1
2	山口リハビリテーション病院	P5
3	山口若宮病院	P9
4	医療法人神徳会 三田尻病院	P13
5	医療法人社団向陽会 阿知須同仁病院	P19
6	阿知須共立病院	P23
7	一般財団法人防府消化器病センター 防府胃腸病院	P27
8	桑陽病院	P31
9	山口博愛病院	P35
10	医療法人康淳会 緑町三祐病院	P41
11	松本外科病院	P45
12	山口病院	P49
13	医療法人社団水生会 柴田病院	P53
14	佐々木外科病院	P57
15	林病院	P61
16	医療法人丘病院	P65

(別添)

防府リハビリテーション病院 医療機関2025プラン

平成30年10月策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人和同会 防府リハビリテーション病院
開設主体	医療法人和同会
所在地	防府市大字台道 1634-1
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	412 床 医療療養 317 床 介護療養 50 床 回復期 45 床 慢性期 367 床 回復期 45 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	401 床 医療病床 306 床 介護療養 50 回復期 45 床 慢性期 356 床 回復期 45 床
診療科目	内科 循環器内科 呼吸器内科 放射線科 整形外科 リハビリテーション科 神経内科 眼科 歯科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	324名 10名 253名 49名 12名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

平均在院日数296.5 病床稼働率95%

特徴 医療療養・回復期化中心

② 自施設の課題

地域の高度急性期・急性期の後方支援病院として医療療養・回復期機能を中心に地域貢献していきたい。

慢性期機能・回復期機能を中心に在宅復帰を目指す患者様のために専門医療分野を含め対応していきたい。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

医療療養・回復期を中心とした医療の提供体制の維持。

専門医療を提供し、地域医療に貢献する。

② 今後持つべき病床機能

医療療養病棟・回復期を中心とした機能提供となるが、今後回復機能をさらに強化していきたい。

③ その他見直すべき点

今後の病棟編成を検討する中で、介護医療院を含めた検討となる。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	45		95
慢性期	367		217
休棟等			
(合計)	412		412
介護保険施設へ移行予定			100
うち、介護医療院			100

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

山口リハビリテーション病院 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	山口リハビリテーション病院
開設主体	医療法人 和同会
所在地	山口市黒川3380番地
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 療養 180床 回復期 124床 慢性期 56床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 療養 180床 回復期 124床 慢性期 56床
診療科目	内科、神経内科、整形外科、リハビリテーション科、小児科、 循環器科、放射線科、胃腸科、歯科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職(リハ他) ・ 事務、その他	306.3人(常勤換算) 9.1人 86.1人 109.6人 101.5人

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

回復期：回復期リハビリテーション入院料 2、体制強化加算 1（34床）

回復期リハビリテーション入院料 3、（90床）

回復期平均在院日数 87日 病床稼働率 81%

慢性期：療養病棟入院基本料 2、夜間看護加算（56床）

療養病棟平均在院期間 172日 病床稼働率 88%

② 自施設の課題

- ・回復期医療の精度を上げ、地域包括ケア病棟との違いを明確にする。
- ・療養病棟については、さらに医療必要度の高い患者の受け入れを図り、地域の長期療養を必要される方を受け入れる体制づくり。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域で不足気味の回復期医療の一翼を担う医療機関として、回復期医療提供体制を維持していく。
- ・長期の療養が必要な患者を受け入れる医療機関として、療養医療提供体制を維持していく。

② 今後持つべき病床機能

③ その他見直すべき点

- ・回復期機能を強化し、地域の急性期医療機関との連携を強化し、シームレスな連携を作り、在宅復帰率やアウトカム評価を上げていけるよう検討。
- ・高齢化のますますの進行並びに急性期病院平均入院期間短縮化等により、当院の回復期リハビリテーション病棟入院患者（特に脳血管疾患患者、大腿骨頸部骨折患者）の平均年齢もさらに高くなっており、合併症もまた多発化・重症化している。今後さらに、急性期後できるだけ早期に患者を受け入れ、高度な医療と充実したリハビリテーションを継続していく体制を検討。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	124		124
慢性期	56		56
休棟等			
(合計)	180		180
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

山口若宮病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団若宮会 山口若宮病院
開設主体	医療法人社団若宮会
所在地	山口市下小鯖 1522
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	173床 療養病床 173床 慢性期 173床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	173床 療養病床 173床 慢性期 173床
診療科目	内科 胃腸科 循環器科 リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	75名 4名 44名 15名 12名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 : 療養病棟入院基本料 1 (20 : 1)

30年3月に介護療養病床(56床)の指定辞退をして、許可病床を229床から173床に減少。25 : 1の入院基本料 2 (113床)を4月より基本料 1 に移行。

7月に併設の転換型老健花和の里(96床)を介護医療院へ移行。

② 自施設の課題

在宅施設がないので、入院患者さんが主に急性期からとなり、毎月の入院患者数の増減が大きい。

入院の受入先の確保が課題となる。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

急性期、地域包括ケア病棟、回復期リハの受け皿となる。

② 今後持つべき病床機能

現在のまま、地域における慢性期として継続する。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	173		173
休棟等			
(合計)	173		173
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2020	介護医療院の増床	急性期等からの受け入れ拡大 看護要員の補充

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

医療法人 神徳会 三田尻病院

医療機関 2025 プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 神徳会 三田尻病院
開設主体	医療法人 神徳会
所在地	山口県防府市お茶屋町3番27号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	144床 一般病床 144床 急性期 94床、回復期 50床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	144床 一般病床 144床 急性期 94床、回復期 50床
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病内科、腎臓内科、血管内科、神経内科、人工透析内科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、アレルギー科、小児科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線科、歯科、歯科口腔外科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	270名 ・ 62名 (常勤13名) ・ 130名 ・ 53名 ・ 25名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

【基本理念】

「病院は地域 そしてスタッフのもの」

【目標】

「地域に求められる良質かつ適切な医療を提供できる病院」

「快適で活力ある働きがいのある病院」

【5年間の指針（平成27年度策定）】

三田尻病院は「地域包括ケアシステム」の中心施設となるべく
地域内の急性期の一部、並びに亜急性期の患者さんに特化した医療を提供する。

【平成30年度事業運営における具体的取組】

（1）地域において急性期・回復期医療を担う病院としての役割

- ①在宅復帰支援強化（地域連携部門強化、サブリハビリセンター増設）
- ②地域医療連携の推進（県央デルタネット事業参加）
- ③疾病の早期発見と早期予防（健診センター疾病予防事業強化）
- ④災害拠点病院機能強化（災害対応訓練実施）

（2）医療の質向上に対する取り組み

- ①チーム医療の推進（口腔ケア等在宅医療への取り組み）
- ②病床機能の効率的運用（病棟稼働率向上への取り組み）
- ③医師、看護師の負担軽減（診療支援室・入退院支援センター新設）
- ④患者満足度向上への取り組み（病室の計画的な整備）

（3）健全経営の確保

- ①医療スタッフの確保と人材育成（教育計画の策定、共有）
- ②医療現場と管理部門の情報共有と相互連携強化（部門目標の策定、共有）
- ③医療費用の適正化（人件費率と材料費の適正管理）
- ④医療機器、設備の計画的な更新・整備（予算計画の策定、共有）

【届出入院基本料】

急性期一般入院基本料6（94床）、地域包括ケア病棟入院基本料2（50床）

【診療実績（平成29年9月1日 - 平成30年8月31日）】

- ・ 1日平均入院患者数 123.9人
- ・ 平均在院日数 19.2日
- ・ 一般病床利用率 87.0%
- ・ 1日平均外来患者数 272.0人
- ・ 1日平均救急患者数 3.3人（独歩）
- ・ 1日平均救急患者数 0.5人（救急車）
- ・ 手術件数 390件
- ・ 紹介率 20.2%
- ・ 逆紹介率 18.6%

【特記事項】

- ・ 災害拠点病院
- ・ 2次救急指定医療機関

【地域特性】

山口・防府医療圏において高度急性期病床を擁する医療機関は3ありそれぞれの防府市中心市街地からの移動時間は以下の通り。

山口県立総合医療センター 15分

山口赤十字病院 40分

済生会山口総合病院 40分

また山口市中心市街地からの移動時間はそれぞれ以下の通り。

山口県立総合医療センター 30分

山口赤十字病院 10分

済生会山口総合病院 10分

山口・防府医療圏において人口の大幅な減少は予測されておらず高度急性期機能においてはその維持が求められる。上記の通り防府地域の高度急性期医療は山口県立総合医療センターに依るところ大であり、その維持を欠かすことはできない。

また防府地域において急性期医療を担う医療機関は前述の山口県立総合医療センターを含め7病院、551床。必要病床数から割り出せばそのうち164床が不要と判断される。

一方、回復期機能を担う病床については355床が不足していると推計され、高度急性期・急性期病床からの移行が行われる可能性がある。

② 自施設の課題

山口・防府医療圏の休床を除く許可病床は3,833床。2025年に必要とされる病床は3,008床。当院が届出ている「高度急性期・急性期・回復期」の区分においては必要病床数との差が約13.7%ある。必要病床数との差を全医療機関で按分するとするならば当院においては144床中の約20床を削減するということになる。

しかしながら「地域特性」の項目にも記載した通り、山口・防府医療圏、とりわけ防府地域の医療提供に際しては高度急性期機能を担う山口県立総合医療センターの存在は欠くべからざるものであり、その高度急性期機能の維持を最優先に考えるべきである。急性期、回復期両機能を担う当院としては急性期機能、回復期機能共にその充実を計る必要がある。その際、課題となる事項は以下の3点。

- ①急性期・回復期（主としてリハビリテーション）における多様な診療ニーズに対応する一部医師への業務偏重の是正。
- ②災害拠点病院として必要な機能の補完、維持に対応する一部医師への業務偏重の是正。
- ③上記2点で必要とされる機能を十分に果たすため現在以上の人数が必要となる看護師の確保。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 急性期・回復期における多様な診療ニーズへのさらなる対応の充実。
- 災害拠点病院として必要な機能の補完、維持。

② 今後持つべき病床機能

- 急性期機能（94床）と回復期機能（50床）は維持するが地域内の他院動向に合わせた対応を行う必要がある。

③ その他見直すべき点

先日の山口・防府医療圏地域医療構想調整会議にて提示された「平成30年度からの病床機能報告における医療機能の選択について」に示された保険点数における医療機能分類に基づいた自院の患者層分析。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	94		94
回復期	50		50
慢性期			
休棟等			
(合計)	144		144
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率、逆紹介率の向上。(一般病院全国平均 紹介率49.8% 逆紹介率23.3%) ・人件費率の適正化(一般病院全国平均 53.3%)

【4. その他】(自由記載)

--

阿知須同仁病院

医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団向陽会 阿知須同仁病院
開設主体	医療法人社団向陽会
所在地	山口市阿知須4241番地4
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	138床 一般病床30床、療養病床48床、介護療養病床60床 急性期30床、回復期48床、慢性期60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	138床 一般病床30床、療養病床48床、介護療養病床60床 急性期30床、回復期48床、慢性期60床
診療科目	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科 外科、脳神経外科、整形外科、放射線科 麻酔科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	203名 5名 118名 45名 35名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 13対1入院基本料、医療療養型、介護療養型
一般病棟 平均在院日数21日、病床稼働率98%以上

② 自施設の課題

療養病床での回復期機能の期的制約

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域急性期の一線病院として役割を果たす
基幹病院との前方、後方支援と周辺開業医との連携
在宅及び関連施設との密接な入退院支援

② 今後持つべき病床機能

さらなる回復期及び療養病床につなぐ連携体制
さらなる在宅支援事業の拡大
今後の診療報酬改定や政策等に伴い、適宜見直しを検討する

③ その他見直すべき点

入院療養が中心であるところの充実を図る
人数確保や働きやすい環境整備を行っていく

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	30		30
回復期	48		48
慢性期	60		0
休棟等	0		0
(合計)	138		78
介護保険施設へ移行予定	—		60
うち、介護医療院	—		60

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018 2019～	介護療養病床を介護医療院に転換	在宅療養の充実を図る 自設備及び関連施設における「地域医療介護総合確保基金」の活用

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

阿知須共立病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人協愛会 阿知須共立病院
開設主体	医療法人協愛会
所在地	山口市阿知須4841-1
許可病床数 (病床の種類) (病床機能別)	135床 一般病床 45床、療養病床 90床 急性期 45床、回復期90床
稼働病床数 (病床の種類) (病床機能別)	135床 一般病床 45床、療養病床 90床 急性期 45床、回復期90床
診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、内視鏡内科、肝臓内科、腎臓内科 糖尿病内科、内分泌内科、呼吸器内科、外科、消化器外科、乳腺外科 呼吸器外科、血管外科、脳神経外科、整形外科、放射線科、 リハビリテーション科
職員数(9/1現在) ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	251.6人(9/1現在、病院のみ、常勤換算) 12.6人 96.4人 103.3人(医療技術員、介護職員、ケアマネ、MSW、保育、調理員含む。) 39.3人

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状 * 数値は平成29年度実績

<急性期>急性期一般入院料5、平均在院日数14.7日、病床稼働率84.6%

<回復期>

■地域包括ケア病棟：地域包括ケア病棟入院料1（平成30年8月1日付取得）、平均在院日数39.1日
病床稼働率89.9%、在宅復帰率82%（本年3～8月平均、基準は6ヶ月平均70%以上）、自宅等から入棟した患者割合54%（本年6～8月平均、基準は3ヶ月平均10%以上）

■医療療養病棟：療養病棟入院基本料1、在宅復帰機能強化加算取得、平均在院日数88.8日
病床稼働率94.5%、医療区分割合89%（本年6～8月平均、基準は3ヶ月平均80%以上）、在宅復帰率75%（本年3～8月平均、基準は6ヶ月平均50%以上）

●救急車搬送件数381件、手術件数310件（内全麻205件）、内視鏡件数4,071件、1日平均外来患者数229人、1ヵ月平均入院患者数102.4人（同退院患者数102.6人）、1ヵ月平均透析患者数45.9人
訪問診療1ヵ月平均患者数33.2人（在宅療養支援病院）、訪問看護実施（訪問看護師数7人）
訪問リハビリ実施、通所リハビリ実施（定員35名）

●病院機能評価認定（平成29年1月4回目の認定、3rdG：Ver.1.1）、人間ドック・健診施設機能評価認定（平成30年3月2回目の認定、Ver.3.0）、電子カルテシステム（平成16年導入、平成30年10月2回目の更新）、施設認定（日本外科学会外科専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ、日本認知症学会認定教育施設、日本透析医学会認定教育関連施設、日本脳ドック学会認定施設、人間ドック健診専門医研修施設）、肝疾患専門医療機関、救急告示病院 等

●県中央ネットワーク提供病院

② 自施設の課題

- 病棟編成については環境変化に応じ数度の再編を実施。現状で一定の完成を見たと考えている。
- 医師体制拡充及び職員教育を徹底し、医療安全はもとより医療提供機能の質的レベルアップを図る。
- 在宅医療強化（訪問診療体制強化、近隣医療機関・施設等との連携強化等）&救急医療体制強化を図る。なお在宅医療については、平成25年、県から在宅医療提供体制構築事業を受託。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 質の高いケアミックス病院として、地域医療機関や施設等との連携を強化し、医療・介護・福祉サービスを地域の皆様にシームレスに提供して行く。
- 地域の皆様の健康長寿を図ると共に、山口テクノパークをはじめ近隣地区に相次いで進出する企業からの要請に応じ、予防医療の強化を図る。
- 当院の理念である「地域の安心支援拠点」「健康長寿」「四者満足」を目指す。

② 今後持つべき病床機能

- 病棟機能は現時点では一定の完成形と考えている。

③ その他見直すべき点

- 本年度事業計画の重点課題である、魅力ある職場作りに向けた働き方改革の実行

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	45		45
回復期	90		90
慢性期			
休棟等			
(合計)	135		135
介護保険施設へ移行予定	—		—
うち、介護医療院	—		—

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

■中期経営計画「NEXT50-革新-」(2016～2018年の3ヵ年計画)で以下の数値目標設定。なお次年度以降の数値目標は本年度策定の次期中期経営計画で設定

<経営目標>

収益及び経常利益目標設定、人件費率(役員報酬含む)60%未満

<医療提供に係る目標>

病床稼働率(一般病棟85%、地域包括ケア病棟92%、医療療養病棟95%、全体90%)

看護必要度(一般病棟21%、地域包括ケア病棟10%)、医療区分(医療療養病棟80%)

在宅復帰率(医療療養病棟50%、地域包括ケア病棟70%)、1日外来患者数220人以上

【4. その他】(自由記載)

■病床機能選択に際し、本年6月診療分レセプトにより保険点数による医療機能分類シミュレーションを実施、結果は以下の通り

急性期(5階一般病棟45床)1日平均点数2,259点、回復期(4階地域包括ケア病棟45床)1日平均点数3,013点、回復期(3階医療療養病棟45床・在宅復帰機能強化加算取得)830点

■平成25年度、県から在宅医療提供体制構築事業を受託。近隣17診療所と連携し「きらら在宅医療協議会」を立ち上げ、在宅医療提供体制拡充に向け継続した取組みを行った。本年度からは在宅医療提供体制充実支援事業として、医師会と連携して活動を継続することとなった。

■医師、看護師をはじめとした専門職スタッフの負担軽減を目的に、働き方改革の具体策を実行し、急性期医療対応、救急医療対応の充実を推進している。主要な働き方改革の具体策は以下の通り。

* 医師・病棟・外来クラーク等各種クラークの導入、病棟ナースエード・コンシェルジュの導入、第5土曜日の休業化や公休日数の増加等休日の増加、リフレッシュ休暇制度の導入、外来受付時間の短縮化、職員何でも相談窓口の開設・相談員の配置、タブレット端末の配備、健康経営宣言等

なお本年度「魅力ある職場づくりプロジェクトチーム」を設置し、更なる改善に取り組んでいる。

* 働き方改革取組みに対する各種認定等

「子育てサポート企業(くるみん)」認定(3回認定)、日本創生のための将来世代応援知事同盟から「将来世代応援企業賞」受賞、「やまぐち働きやすい介護職場宣言事業所」認定、「やまぐち女性の活躍推進事業者宣言制度」登録認定、「誰もが活躍できるやまぐちの企業」認定 等

■患者様に安全で美味しい食事を楽しんで頂くため、ソフト食メニュー開発に取組み、第4回嚥下食メニューコンテストで「HAPPY NEW雑煮」が最優秀グランプリを獲得した。なお本コンテストでは毎年のように入賞、レシピを公開すると共にソフト食の普及のため全国で講演を行っている。

一般財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院

医療機関2025プラン

平成30年 4月 策定

【基本情報】

医療機関名	一般財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院
開設主体	一般財団法人 防府消化器病センター
所在地	山口県防府市駅南町14番33号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	120床 一般病床 120床 急性期 120床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	120床 一般病床 120床 急性期 120床
診療科目	消化器外科、消化器内科、内視鏡外科、内視鏡内科、疼痛緩和内科、胃腸外科、胃腸内科、食道内科、外科、内科、放射線科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	165名 9名 103名 23名 30名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 一般病棟基本料 急性期一般入院料 1 120床

平均在院日数11.3日 病床稼働率65%

② 自施設の課題

今年1月より検証を進め、地域において当院に必要とされる病床機能の再編を検討した結果、直近1年間の患者解析から、急性期に加えて、ポストアキュートならびにサブアキュートの両機能としての地域包括ケア病床が必要であることが明らかとなり再編を要すると考えた。転換に必要とされる機能の中で、リハビリテーション科がなかったため、十分に経験のあるスタッフの入職を待ってリハビリテーション科を新設した。現時点において課題として挙げられるのは今後のリハビリテーション科の拡充と、在宅機能の拡充ならびに2次救急への十分な受入態勢等急性期機能の充実を目的とした医師・看護師・薬剤師等の確保である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

当院は現在消化器外科領域の手術も年間300件程度実施しており、5日ごとの輪番にて2次救急の受入も実施している。また消化器領域に特化したがん治療も積極的に行なっており、消化器内科と消化器外科の連携治療を推進し、内視鏡治療、腹腔鏡下含む外科手術、化学療法、多職種によるがんリハビリテーション、周術期に対応する呼吸器リハビリテーション、緩和ケアなどを含めた医療機能を提供している。がん検診含め、上部・下部消化管への内視鏡検査は年間7000件前後実施している。これらの機能を生かし、今後も引き続き地域の2次救急医療機関として急性期医療を担って行きたいと考えている。

また、医療資源の投入量が1日あたり600点に達しない程度の急性疾患や慢性期の急性増悪ならびに在宅療養における急性増悪時の受入などにも対応しており、今後、当医療圏において地域包括ケアシステムが充実するにあたり、ますます地域の需要は増えると考えている。

また、健康福祉増進の観点から、健診の需要も高まっており、当院においても体制を整えドックの受入を拡充している。

在宅医療についても、医師確保の観点から十分とは言い難いが、現在3ヶ月で20件に達する程度の訪問診療を行なっており、訪問看護も実施している。介護保険事業所の指定も受けており、今後は地域における在宅医療への貢献についても進めて行きたい。

② 今後持つべき病床機能

1日あたりの医療資源の投入量が25,000点超の患者を含め、600点以上の患者層における平均在院日数は9日であった。救急やがんの急性期フェーズにおける対応含め、急性期の病床機能は継続して保持すべきと考えている。また、当院におけるサブアキュートおよびポストアキュートの患者層における平均在院日数は30日であり、ほぼ在宅へ復帰している。これらの患者には地域包括ケア病棟がより適していると考えられ延患者数で約半数に当るため、許可病床数半分60床の転換を計画した。

③ その他見直すべき点

今後転換後、地域における需要を見極める

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	120		60
回復期			60
慢性期			
休棟等			
(合計)	120		120
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018	急性期病床60床を回復期病床（地域包括ケア病棟）に転換	地域で不足する回復期機能を充足

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

・肛門外科を2019年1月に新設予定。

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

急性期における平均在院日数9日・病床稼働率80%
回復期における今後の平均在院日数40日程度・病床稼働率90%

【4. その他】（自由記載）

特に外科医を中心として医師確保が困難を極めており、現在大学医局を含め派遣を依頼している。急性期一般入院料の医師最低必要割合の関係上、稼働率が上げられない状況もあり、可及的速やかに医師を確保し目標稼働率を早期に達成したい。

桑陽病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人米沢記念 桑陽病院
開設主体	医療法人米沢記念
所在地	防府市車塚町3-20
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	108床 一般病床 60床、療養病床 48床 急性期 60床、慢性期 48床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	108床 一般病床 60床、療養病床 48床 急性期 60床、慢性期 48床
診療科目	内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、泌尿器科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	124名 9名 87名 19名 9名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 急性期入院基本料 7 (60床)、療養病棟入院基本料 2 (48床)

平均在院日数 20.7日

病床稼働率 82.2%

② 自施設の課題

長期的、人口減少に伴う医療需要の減少と医療従事者の確保困難。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

急性期病棟は、二次救急輪番病院としての救急医療の提供、及び股関節・脊椎腰椎領域を中心とした整形外科の急性期医療の提供。

慢性期病棟は、透析設備を備えた長期入院が可能な病床の提供。

② 今後持つべき病床機能

現在の急性期病棟及び慢性期病棟は維持していく。

しかし、医療需要と医療従事者確保の状況等に応じて、規模の検討も必要になると思われる。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	60		60
回復期			
慢性期	48		48
休棟等			
(合計)	108		108
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

山口博愛病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人博愛会 山口博愛病院
開設主体	医療法人 博愛会
所在地	山口県防府市お茶屋町2番12号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	98床 一般病棟 53床、療養病床 45床 急性期 53床、慢性期 45床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	98床 一般病棟 53床、療養病床 45床 急性期 53床、慢性期 45床
診療科目	内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、血液内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、整形外科、皮膚科、アレルギー科、放射線科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 看護補助者 ・ 専門職 ・ 事務職	117名 4名 61名 17名 21名 14名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 (H29年度)

一般病棟13対1入院基本料 (地域一般入院料2) 平均在院日数19.7 病床稼働率92.5%

療養病棟20対1入院基本料 (療養病棟入院料1) 平均在院日数142.3 病床稼働率92.3%

② 自施設の課題

- ・入院患者の在宅復帰率をさらに上げること。
- ・かかりつけ医としての役割を在宅医療まで拡大するにあたり、医師・看護師の増員が課題である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①~②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

・地域における、安心して任せられるかかりつけ医機能を有する病院を目指している。すなわち、別記載の表2,3に示すように、当院が直接かかわる在宅機能を充実させるとともに急変時(特に夜間・休日)に、受診を受け入れ入院の必要が有る時にはすぐに対応する体制を整えておく。このことは、安心したかかりつけ医機能を有する病院として非常に重要である。

- ・へき地医療(離島・野島)の提供(詳細は別紙)

② 今後持つべき病床機能

・上記のごとく、当院は急性期の病棟53床、療養病棟45床であるが、地域の患者さんのニーズに対応する病床機能としては現在の形を維持したい。ただ、急な入院に対応するには、急性期の病床数を若干増床することが望ましい。

- ・緩和ケア病床について検討していきたい。

③ その他見直すべき点

・見直すというよりも、より在宅ケアが充実する内部の体制(後述)をさらに充実させることが重要であるとともに、当院では対応が困難な脳卒中や急性の心血管心疾患、骨折などの整形外科疾患などの急性期の医療に対応するため、高度急性期病院との密接な関わりを構築してゆきたいと考えている

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	53		53
回復期			
慢性期	45		45
休棟等			
(合計)	98		98
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

<ul style="list-style-type: none"> ・別紙にて ・当院における地域包括支援の実際

【4. その他】（自由記載）

当院における地域包括支援の実際

各医療機関が、厚生労働省の推し進める「ときどき入院、ほぼ在宅」を目指して、舵をきっている現状の中、当院の患者さんの半数は、山口県立総合医療センターなどの急性期の治療を終えた患者さん（70-90歳のご高齢の患者さんが大部分）であり、医療の重症度が高い患者さんが少なくありません（よって、表1に示すごとく、当院では、平成29年1月から平成30年8月までの間に、残念ながら21%の方が亡くなられています。）よって、単純な方法では、上記のような在宅医療に移行していくには困難な患者さんが当院には多数います。ただ、当院では、以下の取り組みにより、表1&図1に示すように、それでも全体の約4割が在宅に復帰しており、死亡例や転院例を除き、かつ、在宅に準ずる施設系を含めると、約86%（表1に示す $64/64+10=86.648\cdots$ ）が帰っていることとなります。

在宅復帰のためには、医療と介護の両方の視点から患者さんや家族をバックアップすることが重要になってきます。当法人では、「老人保健施設 はくあい」、「居宅介護支援事業所 白雲荘」、在宅介護支援センター（ケアマネージャー）、訪問看護ステーション（訪問リハビリ）、ヘルパーステーション、訪問診療（往診、看取り）のしくみを法人内に整備してきました。表2に、平成27~29年の各部門の在宅や他の施設への（看取りを含めた）訪問件数を記載しました。

当法人では、さまざまなスペシャリストが密接に繋がり、患者さん一人一人のさまざまな状況を想定したプランを策定していきます。独居の患者さんについては、民生委員など地域のネットワークとも積極的に連携し、安心して自宅で過ごすための仕組みを構築しています（地域との交流をさらに推進するために、2018年4月から、企業内保育所を開設するとともに、同じ建物内に地域交流センターを開設しました）。

つまり、新たな患者さんが入院した時点で、地域連携室スタッフと退院調整看護師を中心に、前述の各部門のスタッフが必ず、情報を確認して共有します。法人内にこのような各部門があると、日常的にスタッフの行き来があり、ほぼ毎日顔をあわせる機会があることから、患者さんが入院してすぐの段階から「あの患者さんが自宅に帰る際には何が必要か？」などの会話が交わされています。いわば、入院時から退院まで、切れ目のない支援が続くわけです。入院後には院内カンファレンスで、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、リハビリスタッフが集まり、必要に応じて、ケアマネージャーと一緒に、ご自宅まで訪問して退院までのプランを煮詰めます。もちろん、退院時のカンファレンスもしっかり多職種で話し合っています。退院時には、プランを変更して、対応しなければならないケースも多くあるからです。

こうした在宅へむけての取り組みは多くの医療機関でも力を入れていることだと思います。ただ、退院支援加算や総合評価加算の加算目的のカンファレンスだとなかなか中身を伴わないというのが実感です。患者さんの生活環境や地域の実情、病院の機能を踏まえて、制度を咀嚼し、取捨選択して、取り組みに落とし込んでいく。患者さんやご家族が満足することが第一で、結果的に加算を得ることが本質だと思います。

当法人では、このように、在宅でできるだけ長く過ごすための医療、介護の支援を実施するにあたり、患者さんやご家族に「安心感」を提供することが不可欠な要素と考えています。つまり、退院後も、急変時には、各部門のスタッフがすぐに対応し、入院が必要な場合は、直接の受診（救急車を含む）かスタッフを通じての迅速な入院対応を行っています。在宅だけでなく、医療施設の併設がない施設も含めて、表3に示すように、休日や夜間を通じて、医療的な対応ができるバックアップ体制を敷いています。また、近年、施設入所の患者さんは、認知症を伴う肢体不自由な方が多く、一般の急性期の病院での救急対応が困難なケースが多く見受けられます。このようなケースに対しても、当法人の取り組みが生かせると考え、施設と連携して情報交換を行い、緊急時対応をすることにより、安心して、できるだけ長く施設での生活ができるように、バックアップしています。さらに、そのバックアップを強固にするためにも、当法人では、認知症の専門外来も開設しています。

僻地医療（離島、野島）の取り組み

1986年、防府市の南東14.8kmの海上に浮かぶ「野島」への医師、看護師、事務スタッフの派遣を開始しました。島の診療所にいた医師が引退したため、市の派遣要請を受けました。当院の常勤医師4名が交代で診療にあたっています。三田尻港と野島を結ぶ定期便は1日4往復。片道所要時間30分です。海は、夏は比較的穏やかですが、冬は荒れる日が多く、そんな日は、島に向かう船も随分揺れます。島の人々が船に乗って、当院に受診される場合もあれば、急な治療を要する場合は、救急艇の受け入れもしています。現在、野島は、76世帯、105人が暮らしていますが、わたしが院長に就任した2010年当時は、130人だったと記憶しています。診察する患者さんは以前に比べて、半数ほどに減りましたが、たとえ、数人でも、診療を必要としている患者さんがいる限り、派遣活動を続けていきます。また、島の人が入院するとなれば、本土にいる家族が集まってきます。高齢化が進んでいますから、今後は、このようなケースはもっと増えていくでしょう。野島の人々の家族の結びつきは、一般の方たちより強い傾向にあります。そこで、医療的に重症度の高いひとでも、家族を交えた、上述の当法人の連携部門とのカンファレンスの後、当法人のバックアップを受けながら、本土のこども宅での在宅医療や介護を受ける比率が一般の人々より高い傾向にあります。島の人口は確かに減少していますが、家族を含めた「野島にかかわりのある人々」との当院の縁はむしろ広がっていると言えるかもしれません。

予防医療と早期発見、メンタルケアの推奨

当院では、病気の早期発見と早期治療を目的に表4に示すように、健診、人間ドックをはじめ、メンタルケアの推進のため、平成28年からストレスチェックテストを始めています。このような機会を通じて、当院に馴染んで頂き、かかりつけ医として受診しやすい環境を整えています。

表1 退院先別集計 <平成29年1月～平成30年8月退院>

		平成29年												平成30年												合計	割合	種別割合
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月							
在宅系	自宅	20	19	19	15	24	19	28	12	24	20	17	18	21	15	18	16	16	21	21	25	388	38%	64%				
	ショート	1	1	3	5	1	2	0	2	7	1	1	4	3	3	4	4	2	2	4	0	50	5%					
	ショート(はくあい)	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	9	1%					
	小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1	2	1	1	0	2	0	1	12	1%					
	住宅型有料老人ホーム他	2	4	9	9	5	5	2	7	5	8	6	5	3	2	4	3	4	8	9	3	103	10%					
施設系	特別養護老人ホーム	2	5	7	0	8	7	6	8	4	1	8	4	5	0	3	9	5	2	7	4	95	9%	10%				
	老人保健施設(はくあい)	3	4	8	3	4	5	2	4	5	4	6	6	6	9	4	4	4	3	2	5	91	9%					
転院	老人保健施設(他)	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	8	1%	5%				
	病院	4	5	0	1	3	3	2	3	5	3	4	1	2	1	3	3	2	1	2	0	48	5%					
死亡	死亡	8	11	12	11	9	9	13	9	14	5	13	12	13	12	11	14	14	7	6	14	217	21%	21%				
総計		41	50	59	45	54	53	56	46	64	43	56	52	54	44	49	54	48	48	53	52	1021						

図1

退院先別件数
◇平成29年1月～平成30年8月退院◇

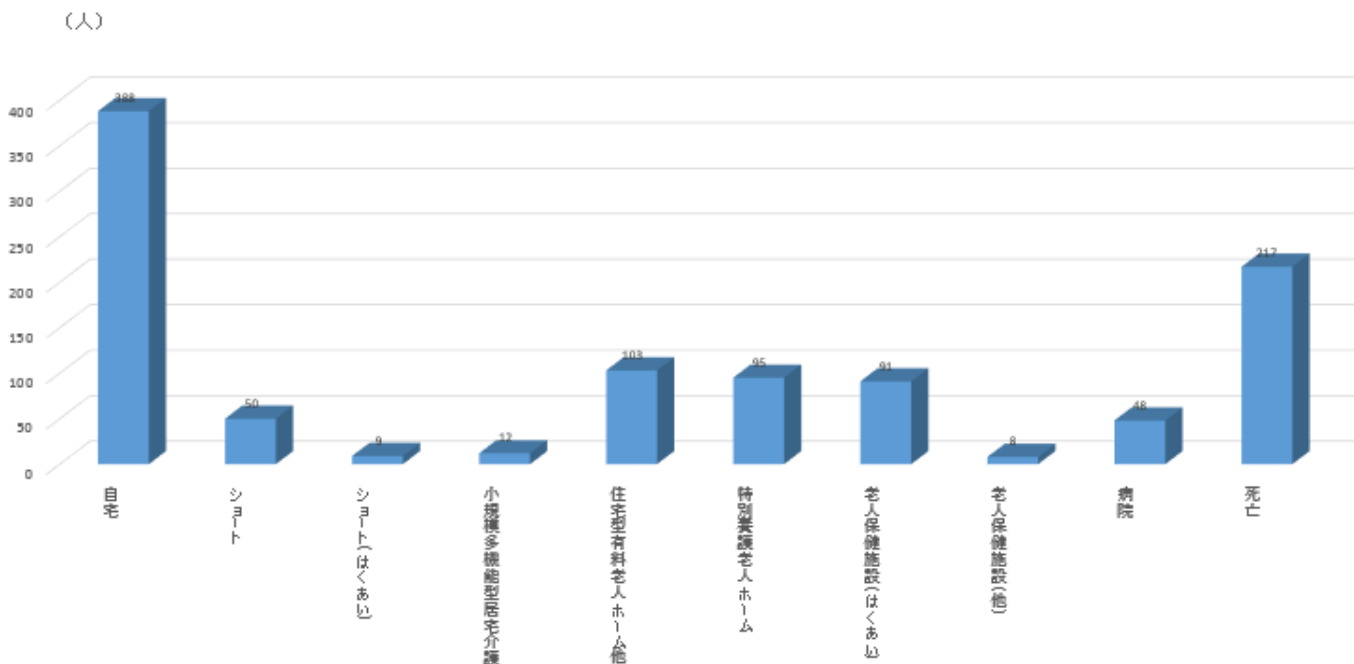


表2 在宅復帰のための取組

年	項目	訪問診療のべ件数(往診を含む)	看取り件数	訪問看護指示件数	訪問介護延べ人数
H27年		323	6	411	989
H28年		462	12	560	1017
H29年		541	12	684	895

表3 休日・夜間受け入れ状況(H29年9月～H30年8月)

受診件数	救急搬送の件数	入院となった件数
150	40	62

表4 予防医療と早期発見、メンタルケア

年	項目	健康診断(入社時・定期)	人間ドック	特殊業務健康診断	保健指導	ストレスチェック
H27年		1557	86	95	10	-
H28年		1346	128	75	7	619
H29年		1232	133	84	4	644

医療法人 康淳会 緑町三祐病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 康淳会 緑町三祐病院
開設主体	医療法人 康淳会
所在地	防府市緑町1丁目5番29号
許可病床数	86床
（病床の種別）	一般病床 32床、療養病床 54床
（病床機能別）	急性期 17床、回復期 15床、慢性期 54床
稼働病床数	86床
（病床の種別）	一般病床 32床、療養病床 54床
（病床機能別）	急性期 17床、回復期 15床、慢性期 54床
診療科目	内科、外科、整形外科、胃腸内科、眼科、リハビリテーション科、リウマチ科、皮膚科、放射線科
職員数	72名
・ 医師	3名
・ 看護職員	39名
・ 専門職	20名
・ 事務職員	10名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 一般病棟 10:1入院基本料 地域包括ケア病床管理料
平均在院日数 12.7日 病床稼働率 95.0%
包括在宅退院率 87.4%
療養病棟 病床稼働率 99.2%
特徴 2次救急臨番病院

② 自施設の課題

・在宅医療の検討

療養病棟は引き続き医療区分2、3の患者を積極的に受け入れていく。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域の2次救急病院として、救急患者の受入を行うと共に、
後方支援病院として回復機能と、長期療養機能を担う。

② 今後持つべき病床機能

- ・現在の状況を維持し、質の向上を目指す。

③ その他見直すべき点

- ・在宅医療の検討。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	17		17
回復期	15		15
慢性期	54		54
休棟等			
(合計)	86		86
介護保険施設へ移行予定	—		0
うち、介護医療院	—		0

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

松本外科病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 社団 松友会 松本外科病院
開設主体	医療法人 社団 松友会
所在地	山口県防府市天神2丁目1番44号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	80床 一般病床 80床 急性期 36床、回復期 44床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	80床 一般病床 80床 急性期 36床、回復期 44床
診療科目	内科、呼吸器科、神経内科、胃腸科、リウマチ科、外科、 整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、 肛門科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	116名 3名 (他非常勤: 15名) 67名 15名 9名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料：急性期一般入院基本料 6

地域包括ケア病棟入院料 2

平均在院日数：15日、 病床稼働率：99.6%

② 自施設の課題

- ・ 回復期病床から自宅、あるいは施設への退院が難しい患者もおり、こういった患者が病床を占有することにより、救急車の受入を制限せざるを得ない状況が発生している。
- ・ 地域で不足している時間外の小児患者の受入体制について、地域の病院と連携して対応できないか検討する必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 5病院での救急輪番病院の一角として、今後も救急車の受入体制を維持していく。
- ・ 地域における回復期機能の一旦を担う。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の急性期病床は、救急輪番病院として適正病床数を検討しながら維持していく。
- ・ 急性期の病床数の適正化に合わせ、回復期病床の適正病床数を検討していく。

③ その他見直すべき点

- ・ 救急車の受入を優先するため、空き病床数に余裕がない状況が多いので、退院先の確保等により空き病床を確保する必要がある。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	3 6		3 6
回復期	4 4		4 4
慢性期			
休棟等			
(合計)	8 0		8 0
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

山口病院

医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	山口病院
開設主体	医療法人
所在地	山口県山口市駅通り2丁目10番7号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	79床 療養病床 慢性期
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	79床 療養病床79床 慢性期79床
診療科目	内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科・呼吸器科 胃腸科・循環器科・皮膚泌尿器科・こう門科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	106名 6名 看護師(准)36名 介護職員31名 15名 18名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

※診療実績等を記入

届出入院基本料 医療療養病床入院基本料 I 51床

介護療養病床 28床

平均在院日数265日、病床稼働率99.6%

特徴 長期入院療養の患者さんが主

② 自施設の課題

※地域の課題（将来の医療需要の減少、地域で不足している機能等）を踏まえた、自施設の持つ課題を記入

- ・ 地域の医療需要の減少が見込まれること、高齢化のため入院期間が長期になる。
症状の重い患者を受入れたいがベッドが空かない。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

長期で重症度（人工呼吸器等装着）の患者さんを（急性期病院等から）受入れを行う。

② 今後持つべき病床機能

今後も慢性期の療養病床を維持

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	79床		79床
休棟等			
(合計)	79床		79床
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

柴田病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団水生会 柴田病院
開設主体	医療法人社団水生会
所在地	山口市大内矢田北五丁目11番21号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病床 40床 地域包括ケア病床 20床 回復期 60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病床 40床 地域包括ケア病床 20床 回復期 60床
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、内分泌内科、神経内科、 外科、消化器外科、肛門外科、整形外科、眼科、リハビリテーション科 放射線科、麻酔科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	131名 常勤 4名 非常勤 8名 64名 24名 31名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 地域一般入院料・1、地域包括ケア入院医療管理料・2

平均在院日数 19.4日 病床稼働率 97%

特徴 4機能のうち回復期が中心

② 自施設の課題

- ・サブアキュート機能の充実を図るべく、救急体制の強化が必要
- ・在宅支援療養病院への届出を満たすための医師の確保が必要
- ・在宅復帰後のサポートや連携強化、訪問系サービスの機能強化が必要

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域における医療ニーズ（救急・リハビリ・看取り）に対応し地域包括ケアシステムの構築や充実に取り組む

② 今後持つべき病床機能

現在13対1（40床）の急性期・慢性期を担う病床を平均在院日数、人員配置、稼働率を検討しながら地域包括ケア病床への転換を検討する。

③ その他見直すべき点

現在、地域包括ケア病床が20床であるため増床を検討したい。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	60		60
慢性期			
休棟等			
(合計)	60		60
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	地域包括ケア病床転換に向けた準備	住宅型低価格有料の建設
2020	13対1一般病床を地域包括ケア病床に10床 転換	地域包括ケアシステム構築充実し一翼を担う
2021	全床を地域包括ケア病床に転換	

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

④ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・病床稼働率60床(90%)54床以上 ・病床改装 10床分 50万円×10床分=500万円(基金を活用)
--

【4. その他】(自由記載)

基金の活用によって地域包括ケア病床の増床を検討したい。

佐々木外科病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団曙会 佐々木外科病院
開設主体	医療法人社団曙会
所在地	山口市泉都町9番13号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	54床 一般54床 急性期44床、回復期(地域包括ケア)10床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	54床 一般54床 急性期44床、回復期(地域包括ケア)10床
診療科目	外科、内科、消化器外科、消化器内科、乳腺外科、肛門外科、 整形外科、リウマチ科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員その他	158名 15名 67名 33名 43名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

一般病棟 7 対 1 入院基本料（急性期一般入院料 1）、地域包括ケア入院医療管理料 1
平均在院日数 15 日、病床稼働率 80.6%
開放型病院（開放病床 6 床）

② 自施設の課題

近隣等の高度急性期病院・急性期病院（山口県立総合医療センター、済生会山口総合病院、山口赤十字病院、山口大学医学部附属病院）に対するポストアキュートとしての連携体制の強化、開放病床を活用して近隣医療機関に対するサブアキュートという役割の維持と継続、今年度病床転換した在宅復帰のための地域包括ケア病床の安定活用

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 一次救急医療機関としての体制を維持する。
- ・ 現状のポストアキュートとしての一般急性期 44 床、それに含まれるサブアキュートとしての開放病床 6 床の体制を維持する。
- ・ 高度急性期・急性期病院と在宅をつなぐ回復期（地域包括ケア病床）の体制を強化し、在宅復帰を推進安定化を図る。
- ・ 予防医療の充実化として、特定健診・保健指導の効果的な実施を推進する。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現状体制を維持する。

③ その他見直すべき点

- ・ 病院経営の側面から急性期一般入院料 1 の算定体制は必須であり、そのためには患者の重症度、医療・看護必要度を鑑みながら、適切な病床運営を検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	44		44
回復期	10		10
慢性期			
休棟等			
(合計)	54		54
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

・医療提供に関する項目（平均在院日数、病床稼働率、紹介率、在宅復帰率ほか）

【4. その他】(自由記載)

ICTなどの活用した地域医療ネットワークシステムの推進を図り、地域完結型医療体制の構築に努める。また、病病連携、病診連携の強化を行うための、地域の中核医療機関のリーダーシップを期待したい。
--

林病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	林病院
開設主体	医療法人 清仁会（社団）
所在地	山口市小郡下郷751番地4
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	一般病床20床 療養病床30床 急性期20床 慢性期30床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	50床 一般病床20床 療養病床30床 急性期20床 慢性期30床
診療科目	内科 循環器内科 消化器内科 神経内科 外科 消化器外科 肛門外科 整形外科 リハビリテーション科 放射線科 内視鏡内科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	10名（常勤4名 非常勤換算1.41名） 41名（常勤40名 非常勤換算0.5名） 11名（常勤8名 非常勤換算1.7名） 12名（常勤9名 非常勤換算2名）

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

(2018年4・5・6月の実績)

届出入院料 一般病棟10対1入院基本料 (8/1～急性期入院料6)

平均在院日数16.3日 病床稼働率91.1%

特徴 当院の最初の入院病棟で積極的に治療を行う。

届出入院料 療養病棟入院基本料 入院料1

平均在院日数452.3日 病床稼働率99.4%

特徴 医療が必要で(喀痰吸引、人工呼吸、難病等の患者さん)家庭にそれに対応できる十分な介護力のない長期療養の患者さんの受け皿。

② 自施設の課題

一般病棟の場合、最近無床診療所が増え、地域支援病院の機能を果す為にも又、在宅で療養される方の急変(訪問看護よりの連絡など)に対応する為、20床くらいの病床は必要であるが、時に病床が満床で受け入れないことがある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域における回復期機能を担う為、リハビリテーションを強化した地域包括病床について検討する余地があると思っている。

② 今後持つべき病床機能

急性期・慢性期病床の数は今のところ妥当と思われる。

リハビリテーションを強化して在宅への復帰が叶うよう常に努力していく。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	20		20
回復期			
慢性期	30		30
休棟等			
(合計)	50		50
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

医療提供に関する項目（病床稼働率 一般96.4% 療養99.1%）直近1年間 経営に関する項目（人件費率 57.9% 研修費率0.3%）30年3月決算
--

【4. その他】（自由記載）

--

丘病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 丘病院
開設主体	医療法人 丘病院
所在地	山口市中河原町 2-14
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	37 床 療養病床 37 床 慢性期 37 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	37 床 療養病床 37 床 慢性期 37 床
診療科目	整形外科、リハビリテーション科、内科、外科 リウマチ科、皮膚科、麻酔科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	54 名 8 名 (常勤 1 名、非常勤 7 名) 13 名 28 名 5 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 療養病棟入院基本料
平均在院日数 189.1日 病床満床率 97.8%

② 自施設の課題

人口減少が顕著であり地域の医療需要の減少が見込まれる中、現状の体制をどのように地域の医療ニーズに適合させるか検討が必要。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

療養病床を地域の医療ニーズに適合させ、地域に密着した医療を提供していく。
リハビリテーションを通じてご自宅への復帰を支援する一翼を担う。

② 今後持つべき病床機能

療養病床の再編、介護医療院について検討する。
病床数は一定程度維持する必要があるが、必要に応じて適正化を検討する。

③ その他見直すべき点

病床満床率は堅調なため、医療政策や今後の医療需要の推移を鑑みて、
地域に適正な医療を提供する施策を検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	37		37
休棟等			
(合計)			
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		37

2025年度は慢性期37床か介護医療院37床のいずれかにする予定

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

